

公益財団法人日本バレーボール協会 2021 年度定時評議員会概要

- 1 日 時：2021 年 6 月 17 日（木）14:00～17:00
- 2 会 場：TKP 新宿西口カンファレンスセンター会議室を開催場所とする WEB 会議
- 3 出席者：

評議員総数 25 名	出席評議員 24 名
監事総数 3 名	出席監事 3 名
理事総数 18 名	出席理事 9 名
- 4 議 長：山本章雄
- 5 決議事項
第 1 号議案 第 11 期（2020 年度）計算書類等の承認の件
第 2 号議案 理事選任の件

6 議事の経過の要領及びその結果

評議員会の開催にあたっては、理事選任という非常に重要な決議となるため、当初は完全対面会議を想定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、対面とリモート（WEB）によるハイブリット開催方式とした。採決方法は、投票以外は Zoom アプリケーション内の「挙手」機能を使用することの確認がとられた。

(1) 第 11 期（2020 年度）計算書類等の承認の件

鍛冶事務局長より、第 11 期（2020 年度）計算書類等の承認の件について以下の説明があり、賛否を諮り承認可決された。

冒頭、監事より下記の通り監査報告が行われた。

【監査報告】

公益財団法人日本バレーボール協会の第 11 期（2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）の業務及び財産の状況等について監査したところ、適正かつ公正に処理されており、その内容が事実であることを認める。また、理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められない。

その他の点では、独立監査人である太陽有限責任監査法人より今後の貯蔵品管理の運用を強化するように指摘があった。

【決算の説明】

2020 年 3 月の理事会で 2020 年度の予算が承認されたが、オリンピック強化に注力する方針

により、当初は経常収益規模で2,274百万円、経常費用規模で2,546百万円による収支▲272百万円の赤字予算でスタートした。

2020年度が始まって以降、コロナの影響により、東京五輪の延期や各種大会の中止による大幅な事業縮小を受けて、8月の理事会では経常収益規模で771百万円、経常費用規模で1,297百万円による収支▲526百万円の赤字補正予算を組んだ。

今年度の決算は、収益については補正予算を上回る949百万円となった。当初運用益を固めに見積っていたが運用が好調であったこと、受取メンバー制度登録料については下期もコロナの影響により増額は見込めないと予測していたが、想定を2倍上回る結果となった。事業収益においては、小学生大会の参加料撤廃やルールブック製造中止による一部収益がマイナスとなる項目もあったが、それ以外の全ての項目で収益を上乗せすることが出来たため、全体として補正予算を178百万円上回った。

費用については、補正予算に対してマイナスとなり871百万円となった。補正予算の段階では下期には予定通りの活動実施を考えていたが、軒並み大会が中止となったことにより、未使用経費が発生し、補正予算を426百万円下回った。

最終的な当期経常増減額は209百万円（うち評価益は131百万円）の黒字となった。

【正味財産について】

上記の結果、指定正味財産を含めた正味財産は210百万円増加し1,835百万円と、過去最高となった。

【公益認定法の3基準について】

なお、公益認定基準の三要件について現況の報告があった。

- ①「公益目的事業比率」は79.8%であり基準を満たしている。
- ②「収支相償」については事業の中止、縮小により支出が大幅に減少したため、126百万円と想定外の黒字となった。2021年度にこの黒字を公益事業に使用する予定であるが、その取り扱いについては、内閣府と相談のうえ進めていく。
- ③「遊休財産保有制限」については、公益目的以外の保有財産208百万円は公益事業に必要な額695百万円以下であり基準を満たしている。

※第11期（2020年度）計算書類等は、JVAホームページに掲載済み。

(2) 理事選任の件

理事選任の件について、これまでの候補者決定にかかわる経緯説明があり、審議及び投票の結果、以下の通りとなった。

【理事に選任された 20 名（五十音順、敬称略）】

小縣徹男、奥村祐年、金川裕一、河本宏子、鬼頭有紀子、國分裕之、小柴滋、坂本友理、嶋岡健治、須藤実和、高野和弘、田野敏彦、鳥羽賢二、灰西克博、原田宗彦、松下敬、益子直美、丸山由美、村上成司、山口香

なお、選任された上記 20 名の理事の任期は 2021 年 6 月 17 日～2023 年 6 月開催の定時評議員会の終結の時までとなる。

【理事選任の経緯について】

・役員候補者推薦委員会での審議結果について（山本議長より）

4 月 23 日に開催された評議員懇談会では、役員候補者推薦委員会において 23 名の候補者を選出するまでの審議過程の説明が行われ、嶋岡会長より理事会では役員候補者推薦委員会での審議や提案内容を尊重しつつも、業務を執行する体制（業務執行理事を担う候補者）を確保する必要性が確認され、理事定足数の上限である 20 名の理事候補者が理事会にて選出された経緯については既に説明が行われていた。

その後、山本議長より役員選任を適正に行う事を目的として、理事候補者に対して「役員候補者意向調査（日本のバレーボールの現状や就任された際の抱負などのアンケート）」が行われた。「調査回答」や「推薦書」「理事会において候補者を減員した理由説明書」等の理事候補者に関する参考資料は 5 月末時点で評議員宛てに事前に送付しており、本日は評議員会で総合的に審議し、理事の選任決定を行う確認が行われた。

【決議方法の決定】

審議前に山本議長より決議方法についての確認が行われ、今回は議決権行使書を使用し、対面出席者は直接投票、リモート参加はメール投票（或いは FAX 投票）を併用すること、集計・開票作業は事務局が行う事について満場一致で決定された。

その後、評議員だけの審議が行われ、投票の結果、理事会から推薦された 20 名の理事候補者全員が承認可決された。

7 報告事項

(1) 第 11 期（2020 年度）事業報告の件

嶋岡会長より第 11 期（2020 年度）事業報告が以下の通り行われた。

1. 事業の概況

今年度は、前年度に発生した新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、予定されていた 2020

オリンピック・パラリンピック東京大会（以下「東京 2020 大会」という）が1年延期されたことを始め、ほとんどの大会が中止または大幅な制限を受けた中で、すべてのカテゴリーの日本代表チームが活躍の場を失ってしまい、大変厳しい一年となった。

(1) 今年のトピックス

- ① 東京 2020 大会のテストを兼ねた有明アリーナテストマッチが中止となった。
- ② 第3回バレーボールネーションズリーグ (VNL) が京都府、富山県にて開催予定であったが中止となった。
- ③ 天皇杯・皇后杯は都道府県ラウンド、ブロックラウンドを中止し、ファイナルラウンド決勝戦のみ観客を入れて開催した。
- ④ 緊急事態宣言の発令などにより、3度にわたり事務局を閉鎖した。(3/31~5/31、8/4~8/16、1/13~3/21)

(2) 決算について

今年度はオリンピックの年として強化に全力を尽くすための赤字予算を計上したが、東京 2020 大会の延期に伴い事業を大幅に縮小した補正予算を計上した。その後もコロナ禍収束の目途が立たなかったためほとんどの事業の中止、大幅な縮小に至り、収入も大幅に減少したが、支出の減少がそれ以上に大きかったこと、大幅な社債の評価益が生じたことなどから最終的に黒字決算となった。

収入面では、当初予算 2,274 百万円から 58%減の 949 百万円となり、支出面では当初予算 2,546 百万円の 66%減の 871 百万円となった。前年度は社債の評価損を計上したが、今年度は評価益を 131 百万円計上したため、税引き後の最終利益は 209 百万円となった。

※第 11 期（2020 年度）事業報告については、JVA ホームページに掲載済み。

(3) 理事の任期満了について

山本議長より、本日の定時評議員会の終結をもって、任期満了による退任となる理事と重任となる理事の報告が行われた。

（五十音順、敬称略）

■任期満了による退任となる理事は以下の通り。

岡野貞彦、鍛冶良則、柏木 斉、高橋 憲太郎、千葉 智行、原 卓弘

■任期満了となり重任（2021 年 6 月 17 日～2023 年 6 月の定時評議員会終結の時まで）となる理事は、以下の通り。

河本宏子、小柴滋、坂本友理、嶋岡健治、須藤実和、高野和弘、鳥羽賢二、
原田宗彦、松下敬、丸山由美、村上成司、山口香

予定していた全ての議事・報告が終了し、議長は 17：00 に閉会を宣した。